



環境の将来像と 目指すべきまちの姿

- 1 環境の将来像
- 2 目指すべきまちの姿



1

環境の将来像

1 環境の将来像

協働が築く

自然と都市が調和するまち

松山

～緑の映える快適で“笑顔”広がるまちを目指して～

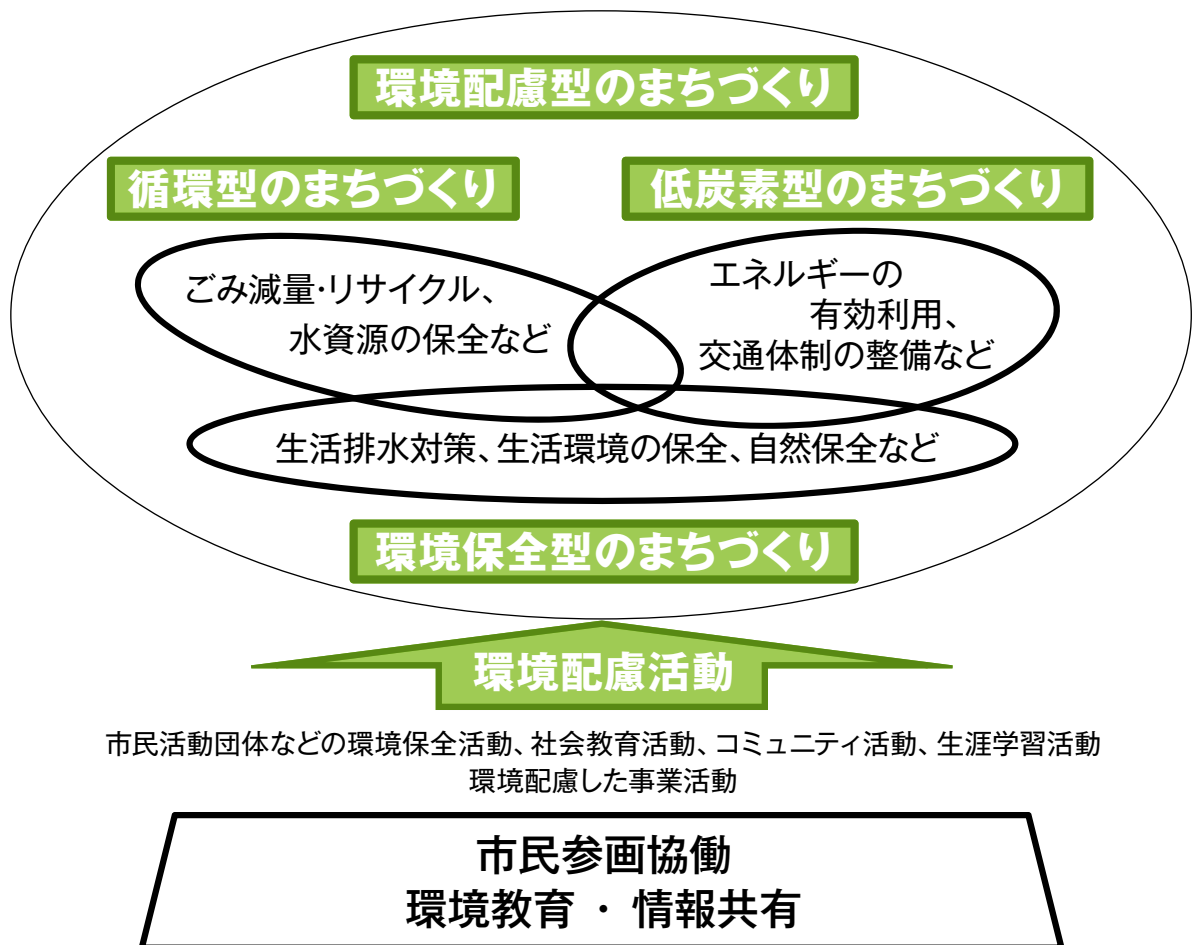
「いきいきと暮らす人々」「快適な生活環境」「豊かな自然環境」それぞれが本市のまちづくりに、豊かさ、潤い、元気を与えてくれる大切な“たから”です。本市では、各主体が協働して、これらの“たから”を知恵と工夫で大切に守り、磨き続けることにより、環境への負荷を低減し、豊かな自然を未来へつなげ、人々の笑顔が広がるまちを目指します。



2050年の松山の姿

2050年の松山は、市民一人ひとりがライフステージに合わせ、自発的に環境を知り、学ぶことにより、環境への負荷が少ないライフスタイルへの転換が図られるとともに、環境を重視する価値観が広がり、環境に配慮した生活文化が根付いています。

また、各主体の連携と協働により、資源を有効に活用する「循環型」、温室効果ガスの排出が少ない「低炭素型」、快適な生活環境と豊かな自然を保全する「環境保全型」、みんなが環境に配慮した行動を率先する「環境配慮型」の社会が築かれ、いつまでも住み続けたいまちとして市民に愛されています。



2

目指すべきまちの姿

目指すべき環境の将来像「協働が築く自然と都市が調和するまち松山～緑の映える快適で“笑顔”広がるまちを目指して～」の姿は次のとおりです。

循環型のまち

1. 各主体がごみ減量に継続的に取り組み、「ごみ減量日本一のまち松山」として全国から注目されています。
2. 生産者は、ごみの減量につながるリサイクルを前提とした商品を作っています。
3. ごみに価値を見出し、新たな技術も取り入れながらごみを資源として利用するリサイクルの輪が確立されています。
4. 学校で充実したごみ学習が行われ、「ものの大切さ」や「もったいないの精神」が未来を担う子ども達に引き継がれています。
5. 雨水タンクの設置が進み、地下水のかん養¹が図られるなど、水資源の有効利用と保全が図られています。また、節水型機器が建物に備わり、節水の意識が根付くことで、みんなが水を大切に使っています。



低炭素型のまち

1. 利用しやすい公共交通、人や自転車利用者に配慮した交通体系が整備され、みんながあらゆる機会環境にやさしい移動手段を選択しています。
2. 建物に省エネルギー機器が整備され、使用電力の見える化などによって節電の意識が根付くなど、少ないエネルギーで生活を営む環境が整っています。
3. 街中や未利用地などに太陽光パネルが広がるなど、クリーンエネルギー²を有効に活用しています。
4. 発電設備や蓄電設備が建物などに備わり、地域の電力需給を最適に管理するシステムが整うことにより、無駄なく効率的にエネルギーが利用できる環境が整っています。



1 雨や川の水などが地下に浸透して帯水層に流れ込むこと。

2 石油や石炭のように使用することによって大気中の二酸化炭素を増やさないエネルギー。植物や畜産廃棄物を利用するバイオマスエネルギーのほか、太陽光発電、太陽熱利用、風力発電、水力発電、波力・潮力発電などがある。

環境保全型のまち

1. 地域の状況に合わせ、下水道の整備や合併処理浄化槽の設置が進むことにより、きれいな水が自然環境に流され、川や海の水質が向上しています。
2. 事業者の自主的な環境汚染対策が進み、行政による指導・監督が適正に行われることにより、住みよい環境の中、市民が健康で快適な生活を送っています。
3. 多くの施設や公共空間で緑化が進み、緑豊かな公園が地域に整備されるなど、身近に自然があふれる「都市緑化のまち松山」となっています。
4. 里地・里山・里島が人の手により適正に管理され、生き物でにぎわっています。
5. 学校にビオトープ¹が設置され、憩いの場として生徒が集まり、自然と触れ合う中で環境保全の意識が育まれています。
6. 川が多自然河川としてよみがえり、水辺で子ども達が生き物と戯れています。
7. ワークシェア²などにより生まれた自由な時間を活用して農業を営む人が増え、耕作放棄地³が有効に活用されています。



環境配慮型のまち

1. 様々な機会を通して、ライフステージにあった環境教育を継続的に行うことにより、一人ひとりが自発的に松山の環境を守っています。
2. 自然環境や地球温暖化対策、ごみ減量リサイクルなど、環境に関する情報が様々な手法で発信されることにより、あらゆる世代で環境に対する意識が芽生え、生活の中でみんなが松山の環境について語り合っています。
3. 市民・市民活動団体・事業者が環境に配慮した取り組みを行う際の支援体制が充実し、みんながいきいきと活発に活動しています。
4. 各主体がつながりを深める機会が創出され、みんなで環境に配慮した活動に取り組む「環境の環」が広がっています。
5. 市民一人ひとりの環境美化に対する意識が高まり、ごみのない清潔で美しいまちとなっています。
6. 松山の地域特性を活かした環境ビジネスが創出され、みんなが環境に配慮した製品に価値を見出すなど、環境と経済が相乗的に発展しています。



1 生き物 (Bio) がありのままに生息活動する場所 (Top) という意味の合成された語。本来は自然環境そのものを指すが、生き物が住みにくい都市部などで、人間によって再構成された自然環境を特にビオトープという。

2 仕事の分かち合い。仕事が少なくなった時などに、1人の仕事を複数人で分割して仕事をする事。

3 農作物が1年以上作付けされず、数年の内に作付けする予定がない田畑、果樹園。

2050年の松山の姿

